

【NPO通信】

インドネシア教育振興会(10) 『育ち合う』姿勢 守る

2010年6月8日

インドネシアで学校、図書館建設のほか、道徳、環境教育などにも力を入れるインドネシア教育振興会。同会は、上から目線で教えるのではなく、あくまでも現地の人々を主役に、ともに育っていくという姿勢を大切にしている。

インドネシア教育振興会のキーワードの一つは「育てる」です。インドネシアでの学校や図書館の建設など、私たちが「ハコモノ」を造って現地の人々に贈るのではなく、現地の人々が自分たちの学校や図書館をつくり、活用していくように活動を組み立てています。

バイオマスを活用した環境保護意識の啓発活動も、環境を改善してあげるというよりも、現地の人々自身が改善を継続的に図れるようにプロジェクトを進めています。

日本の子どもたちに対しても、単に寄付品を当会に送るだけでなく、寄付品が現地の子どもたちに届くまでの流れや、その過程で生じるさまざまな経費や困難も学んでもらうようにしています。

自分たちに手軽にできるところだけかわり、それ以外は他人に任せるのではなく、もう一歩進んで、なるべく自分たちでできるようにしてほしいと考えています。

他人を「育てる」ことは簡単ではありません。手間も時間もかかります。計画した通りに物事が進まないことの方が実際には多いです。相手を育てているつもりで、実際には私たちが育てられていることも数知れません。「上から目線」で「教える」のではなく、相手と「育ち合う」という構えで、今後も活動したいと思います。

インドネシア教育振興会は小さな団体で、私たち自身の手でできることは限られています。今後もボランティアの方々の協力を得ながら活動していくことになります。

ある意味で不安定な運営ですがその半面、皆さまが私たちの活動を信頼して協力してくださることは本当にありがたいことであり、これまでの活動の継続と蓄積がその信頼を生んできたのかもしれないと考えています。

会としては、私たちにできる身の丈にあった活動をその都度していくことになると思います。皆さまの期待と信頼を裏切らぬよう、インドネシアと日本の子どもたちのために活動したいと思います。今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。（インドネシア教育振興会理事、富山大学人間発達科学部教授・野平慎二）



インドネシア教育振興会のスタッフら＝富山大で

PR情報

[東京築地でキティちゃんが運転している乗り物は何！？【47CLUB】](#)
[家計仕分けで保険見直し！35歳\(男性\)月額970円の死亡保険で家計改善](#)